

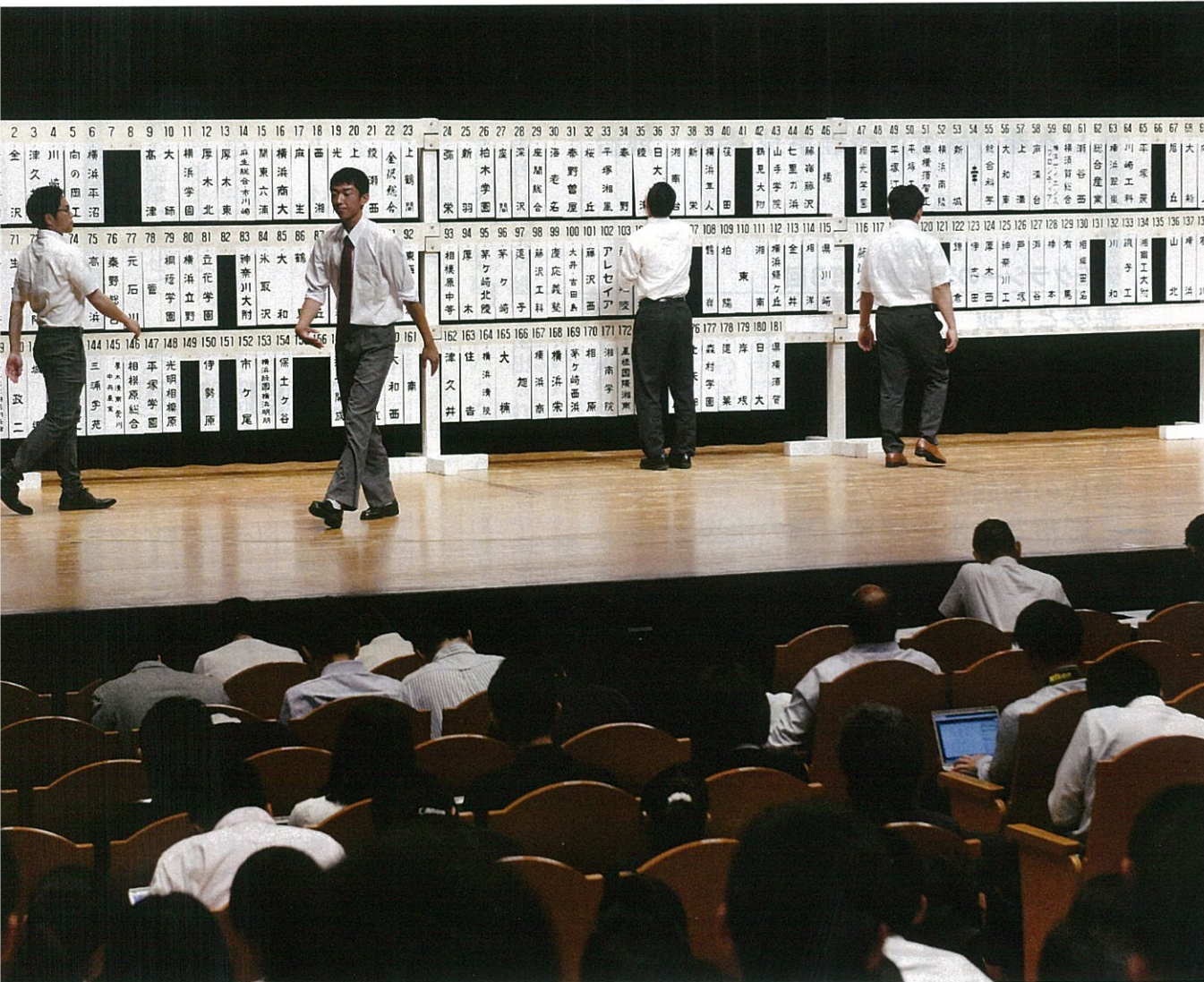
2019 6/25

No.2093

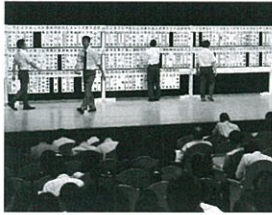
毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



181校が参加する第101回全国高校野球選手権神奈川大会（7月7日開幕）の組み合わせ抽選会が8日、県立青少年センターで全国のトップを切って開催された。



視点・点描	3
美空ひばり没後30年	
講演録	4
消費増税を乗り切る企業の成長戦略 日本総合研究所副理事長 湯元 健治	
デモクラシーの現場から 第8回	8
悪夢と1強	
国際	10
習氏の笑顔が消えたわけ 影落とす米中貿易協議の決裂	
くらし2019	12
自治体と連携して障害者農園	
アジアの風	14
タイ式民主主義の立役者逝く	
NNAアジア経済リポート	15

事務局だより

◇2019年7月定例講演会
7月29日(月)午後1時30分～3時
ホテルモントレ横浜3階「ビクトリア」
講師は明治大学特任教授、前国立社会保障・人口問題研究所副所長の金子隆一さん
演題は「人口減少社会の実相～日本の課題と挑戦」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ (www.kanagawa-seikon.jp) に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045(226)2121。

【おことわり】 神奈川景気データファイル2019年6月は7月9日号に掲載します。

視点 点描



美空ひばり没後30年

日々を過ごしている人たちが「日々を過ごしている人たちが」と回想。芸能好きだった父母やこうした地元の人たちの影響で自分も歌うことが好きになったと記している。

横浜演劇史研究家の小柴俊雄さ

ん(85)は、この少女が「美空ひばり」として本格デビューするまでの足跡を当時の新聞やパンフレット、関係者への聞き取りなどをもとに丹念に解き明かしたことで知られる。小柴さんの考察を裏付けたのが、当時の神奈川新聞に掲載された映画館や劇場の興行広告だった。その出演者や演目の中に、「美空(ミソラ)一枝」「美空和枝」「ペビーシンガー・美空ヒバリ」などの名が残る。

ひばりさんは1949年に「河童ブギウギ」でレコードデビュー。

その後、「悲しき口笛」「東京キッド」「リング追分」「港町十三番地」「柔」「悲しい酒」「おまえに惚れた」

「愛燦燦」「みだれ髪」「川の流れるように」など数多くのヒット曲を放ち、52歳で亡くなるまでの40年以上にわたり第一線を走り続けたことは言うまでもない。没後、

女性初の国民栄誉賞を受賞した。

ひばりさんの芸能界デビューの足掛かりとなった杉田劇場の跡地には2005年、「旧杉田劇場跡」という史跡標示板が設置され、その名を冠した区民文化センターがオープン。09年には、磯子区役所近くに「美空ひばり生誕地記念碑」も建立された。その名が全国区となる前に専属歌手として活躍した横浜国際劇場跡地近くには、記念像もある。

戦火をくぐり抜け、復興と高度成長を歌の力で支えた歌姫は、横浜を見下ろす高台の墓地に眠る。戒名「茲唱院美空日和清大姉」。

(神奈川新聞社文化部長

高田 久美子)

横浜に生まれ育った国民的スター、美空ひばりさん(本名・加藤和枝、1937〜89年)が亡くなって今年6月24日で30年。昭和を駆け抜けた「歌姫」ゆかりの地には、一時代を経た今もなお多くのファンが訪れ、思いをはせている。

横浜市磯子区滝頭にあった通称「屋根なし市場」内の鮮魚店「魚増」の長女として誕生したひばりさん

は、戦後間もなく復員した父が娘のために結成したアマチュア楽団とともに、市内の杉田劇場、アテネ劇場、大見劇場、銀星座などの舞台で歌うようになった。当時、滝頭国民学校3年生。わずか8歳だった。

ひばりさんは自伝の中で「滝頭の人はみんな歌や芸能が好きで、喜びも悲しみも歌の旋律に乗せて